

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	95	48	41	4.9	13.4
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3年	学校	97	56.6	47.6	41.3	44.8	47.6	6.8	4.3	16.2	5.4	7.1
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9

※ 3年生の理科はC問題を選択

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和6年度 全国学力学習状況調査より

〈国語〉

【成果と課題】

平均正答率は48%であり、大阪府の平均より9%、全国の平均より10.1%低い結果となった。観点別の平均正答率は、知識・技能が53.2%、思考・判断・表現が45%だった。問題形式ごとの平均正答率は、選択式が54.2%、短答式が53%、記述式が26%であり、特に記述式問題の平均正答率は、大阪府の平均正答率より16.2%、全国の平均正答率より19.5%低い結果であった。

記述式の問題の中でも、2四(本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する)の無回答率は4.2%であったのに対し、1四(話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く)は14.7%、3四(表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する)は24.2%、と高く、「自分の考えを文章化すること」「表現を工夫して創作文を書くこと」に苦手意識を持つ生徒が多いことがうかがえた。

【今後に向けて】

国語科においては、説明的文章や文学的文章の読解だけでなく、それらの文章の内容を受けての自分自身の考えを文章化する取り組みや、文章に含まれる表現の工夫に目を向けさせ自身の文章力の向上に繋がるよう指導していきたい。また、漢字や語彙に関する知識を問われる問題で確実に得点できるよう、過去の学習内容についても繰り返し復習の機会を設け知識の定着を図っていく。

〈数学〉

【成果と課題】

問1 について全国平均34.8に対して本校は12.6である。

本校の誤答の傾向として、nを使って解答するということは把握しているが、正しく記載できていないというものが多い、授業内でのぼんやりとした内容だけが定着し、なぜそのような形で表現できるかなどの理解が徹底できていない。

問3 について全国平均68.3に対して本校は57.9である。

回転移動した図形の各頂点がどこに移動するかを答えるだけの問題であるが、正答者が6割にも満たない。説明をすればすぐに理解できるが、改めて問われると正答できないものが多いように思う。問題演習の少なさが原因としてある。

問4 について全国平均65.3に対して本校は51.6である。

この問いは言い換えれば「傾きを大きくするとグラフはどのように変化しますか」となる。こう聞かれれば正答できる生徒が本校では増えると思う。しかし、このような問われ方に対応できないのは文章理解する能力と数学的知識がつながっていないのだと考える。本テストの場合は選択肢問題であり、上記の問いは記述式である。一般的に選択肢問題の方が回答しやすいように考えるが、生徒の数学学習に対する困り感は数学的知識がテストでの聞かれ方と乖離しているところにあるよう思う。

問6-(2) について全国平均35.9に対して本校は14.7である。(部分点も含む)

本校の回答の傾向として、与えられた式をとりあえず計算するということがみられる。問い合わせる見通しを立てて計算を進めるなどの訓練が少ない。文章を読んでどのよう式を得る必要があるか、どの式を得たいのかという感情を刺激できていない。

問7-(1) について全国平均74.3に対して本校は64.2である。

最頻値を求めよという問い合わせに対する回答方法が明確であるため、回答を完成できる生徒が6割をこえている。しかし、全国平均に対し10ポイント下回る結果になっているのは演習不足が原因である。

問8-(1) について全国平均83.4に対して本校は80.0である。

この問い合わせ全体平均が10ポイント下がる本校の生徒のうち8割が正答できていることには教科書、ワークなどでこのように問われる場面多いことが要因だと考えられる。

問8-(2) について全国平均17.1に対して本校は12.6である。

この問い合わせの正答率の低さは、1行目から3行目までの文章が難解であること、また、ア、イの選択肢が「同じ説明をするための2つの方法」であるとの理解がしにくいことによるものだと考える。教科書ではイの考え方の便利さを強調して指導するため、細部でアの式から値を求めていくところまで習熟させられていない。

問8-(3) について全国平均76.9に対して本校は68.4である。

この問い合わせに関しても比較的に教科書で強調して指導している内容である。

問9-(1) について全国平均25.8に対して本校は11.6である。

合同の証明を書くだけの問い合わせ。この正答率の低さは授業内指導に課題があると考える。

問9-(2) について全国平均26.7に対して本校は14.7である。

この問い合わせ全問での合同に着目すること、正三角形の固定による外角の120°が決定することに着目することが必要になる。これは、選択肢から消去法的に推測・計測していくことでも正答にたどり着ける。おそらくそのように考えた生徒が多いように思う。ここではその思考をたどれる思考力をはぐくめていたかどうかが本校の正答率の低さにつながっていると考える。

【今後に向けて】

本校の数学科においては、基礎学力の定着に重点を置き指導に当たっている。問2や問5への正答がかなり低いことからもわかるように、まずは数学的知識を定着させる必要のある生徒が40~60%いることが推測できる。この層の生徒に基礎を演習により定着させる時間をまずは確保すること。また、数学的知識が定着している40%ほどの生徒に対しては数学的言語活動の充実と、問われ方にかかわらず数学的知識を利用できるようになるための教材研究と授業実践を続ける。

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和6年度チャレンジテスト 3年生

〈国語〉

【成果と課題】

平均点は56.6点であり、大阪府の平均点65.2点と比較して86.8%という結果となった。得点集計値では、割合が最も高かったのが45～49点の11.7%で、平均点の周辺である55～59点は全体の6.4%であり、学力が上位層と下位層に分かれている。府平均と比較すると、知識・技能の観点では漢字の書き取りや漢文の読み方に関する問題や、思考・判断・表現の観点では文脈に合わせた表現の書き換えや条件に従った記述の問題で正答率が低かった。問題形式ごとの平均点は、選択式が35.7点(対府比89.0%)、短答式が14.4点(対府比82.8%)、記述式が6.5点(対府比84.3%)であった。文章中から必要な情報を抜き出したり、条件に合わせて記述したりすることが不得手な生徒が多いと考えられる。

【今後に向けて】

漢字の読み書きは国語科の試験では必ず出題される内容であるため、漢字の知識を増やすことが試験の成績の向上にもつながると考えられる。また、文章の記述力や読解力を向上させるためには言語に関する知識が必要不可欠だと考える。国語科では、授業や家庭学習の課題を通して漢字や伝統的な言語文化など国語に関する知識の定着を図り、入試において確実に得点できる学力を育成する。

〈社会〉

【成果と課題】

平均点は大阪府と比較して、2.8ポイント下回った。昨年度は府平均を上回ったが、今回下回った要因として考えられることは、時間の経過による忘却を復習によって、抑えることができなかつたのではないかと思われる。圧倒的に、定着した知識の量の少なさがあり、特定の知識(今回であれば、フイヨルド、大宰府など)は覚えているが、一方で定着していない語句も多かった。その時印象に残ったり、再度出てきた語句に関しては定着がみられるので、定期的に繰り返しのドリルを行うべきかもしれない。思考力を問う問題では、総合的読解力を上げる必要があり、一つの教科だけでなく、どの教科も横断的に取り組むべき課題だと思う。

【今後に向けて】

定期的な振り返りの知識定着のためのドリルを行う。現在は、一つの授業後に単語を何回も書かせているが、そうではなく、1か月に1回の復習テスト、および定期(中間・期末)テストを再び1年後に実施するなど、学習量を強制的に上げる。社会科に関する興味・関心を持って自動的に調べたり、ノートに表現する生徒は多いが、それだけでは、テストの点数の向上につながらないことが普段の定期テストでもわかっているので(主体的発展的なノートを作成していくも、定期テストで高得点は取れていない)今回の大阪府のチャレンジテストのように知識の有無を問うようなものに関しては、繰り返し問題を解くなど知識の定着を図っていく。

〈数学〉

【成果と課題】

平均点は大阪府と比較して、マイナス7.7ポイントであった。「数と式」では、基本的な四則演算は府の平均に近いポイントがある。一方で因数分解の問題となると、10ポイント近く府平均からマイナスとなる。同時進行的に比較的負荷の高い二つの計算を進めなくてはいけない場合や、計算して出した値同士を再度考察するなど、思考が複雑になっていくほど、基本的な問い合わせあっても正答率は下がるといえる。顕著な例が連立方程式である。二つの方程式のつながりを確認していくながら、二つの文字の値を求めていくという単元であるが、あまりにも正答率が低い。一方で、分母の無理数の有理化の問い合わせは府平均をこえている。分母の有理化は計算の難易度でいえば高い問い合わせであるが、扱う数は多くない。単元「図形」においては基本的な知識がかなり欠如している。「関数」に関しては比例の問い合わせが半数近く正答できていない。「データの活用」においても基本的な内容をおさえれば正答できるはずである。

【今後に向けて】

数学科では、より演習を軸とした授業改善をするべきである。特に演算分野に関してはトレーニングがあまりにも足りていない。問い合わせを解く中で原理を理解していくというのも数学という教科の特徴であるといわれているので新たな視点で教材研究に取り組んでいかなければいけない。また、カリキュラムを作成する際に、图形とデータの活用の分野においては、基本的な問い合わせの習熟を最優先させなければいけない。それ以上のことは、難易度を調整して個に応じた演習時間を設けるべきである。関数分野に関しては、教科書の手順で指導するよりも、関数のシステム(x の値が決まれば y の値が一つオートマティックに決まる)を指導したあと、式で表すことのみを演習の中で身につけさせる。次にその式から表を完成させることを身につけさせる。最後に表からグラフを作成することを身につけさせる。これにより関数における数の代入という計算的重要性を理解し、膨大な量の計算練習をすることになる。関数の原理と計算の関係を密接に感じ理解できるようになる。

〈理科〉

【成果と課題】

平均点は大阪府と比較して、-7.5点だった。4分野の中で「生命」の分野が低く、ヒトの肺のつくりとはたらきについてや遺伝の項目の正答率が特に低かった。植物の分類や動物の特徴について、正解できていない生徒もあり、1・2年生の復習や基本的な知識が、まだまだ足りていない。1学期の中間テストで出題した「地球」の分野は、正答率が他に比べて良かった。復習プリントを定期テスト前にさせていたので、問題を解けた生徒が多かったように思う。中間層が少ないのでも、一問一答形式での知識の定着や文章問題に挑戦する時間を作り、下位層を育てていきたい。

【今後に向けて】

これまでの復習を授業と並行しておこない、実力テストや入試対策に備える。3年生の範囲は定期テストで繰り返し出題し、知識を定着させる。また問題文の多いものは読み飛ばしたり、読まなかったりする傾向がある。普段からのテストで問題文を読む習慣をつけさせ、今後に臨みたい。

〈英語〉

【成果と課題】

府平均-6ポイント(昨年度3年-7.1ポイント)と、経年比較では平均点がやや改善した。「聞くこと」「読むこと」については、府平均-2ポイント以内に収まっており、比較的健闘していた。しかし「知識・技能」が府平均-3.8ポイント、「書くこと」が府平均-3.4ポイントと大きく開きがあった。

【今後に向けて】

英語科では、「知識・技能」、「書くこと」を改善するために、「聞くこと」・「読むこと」の強みを生かしながら指導する。具体的には「読む」活動の中で知識を定着させる教材を作成し取り組ませる。また「聞くこと」を通して、それに対する返事や自分の意見を「書く」活動をさせる。複合的な要素を取り入れ、生徒の英語力向上に取り組む。

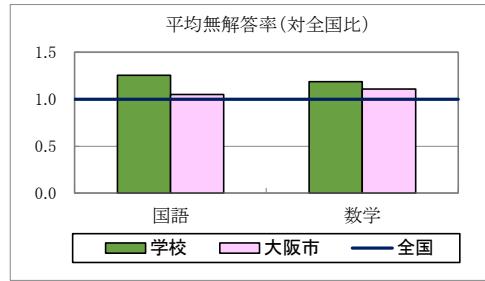
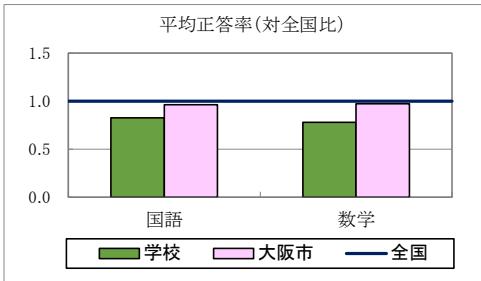
**令和6年度 東生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	48	41
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

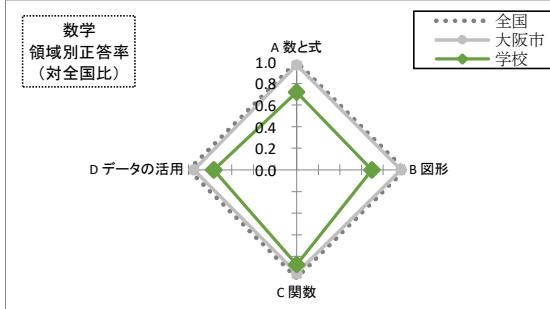
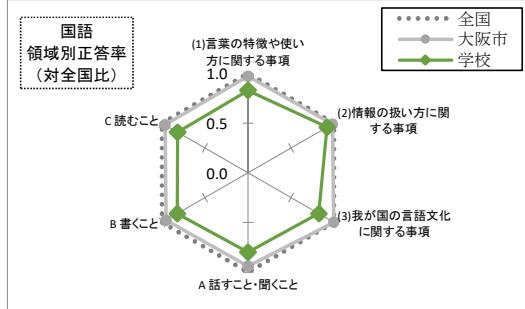
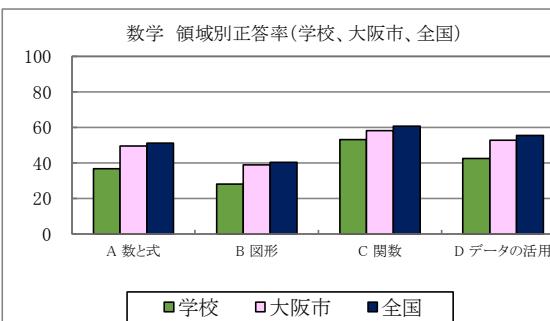
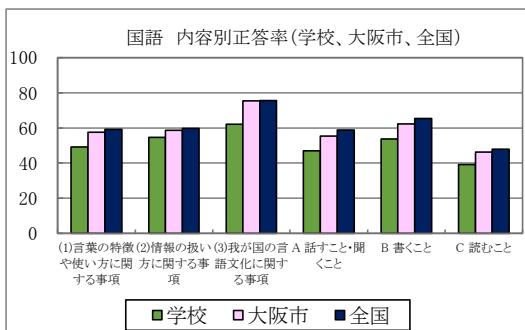
平均無解答率(%)	
国語	数学
4.9	13.4
4.1	12.5
3.9	11.3



【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	49.1	57.5	59.2
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	54.7	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	62.1	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	47.0	55.2	58.8
B 書くこと	2	53.7	62.2	65.3
C 読むこと	4	39.2	46.2	47.9

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	36.8	49.6	51.1
B 図形	3	28.1	38.9	40.3
C 関数	4	53.2	58.1	60.7
D データの活用	4	42.6	52.8	55.5



令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

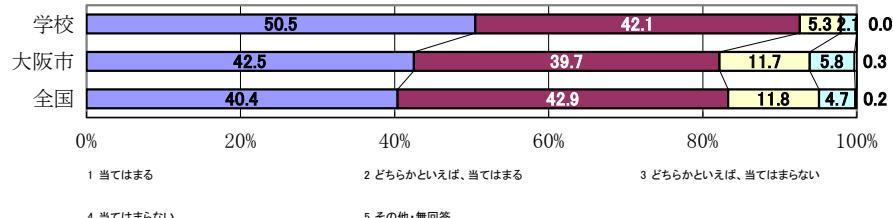
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

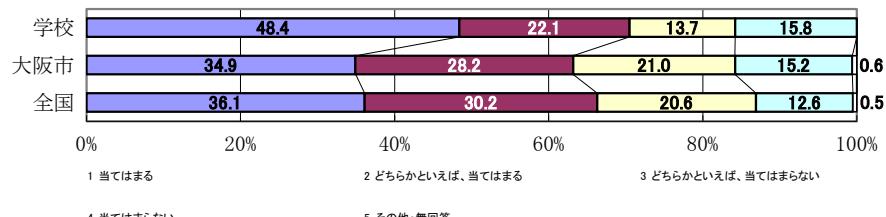
9

自分には、よいところがあると思いますか



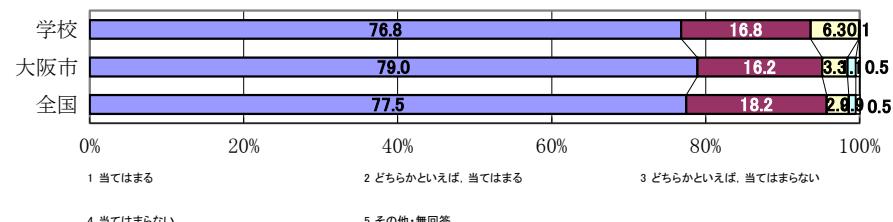
11

将来の夢や目標を持っていますか



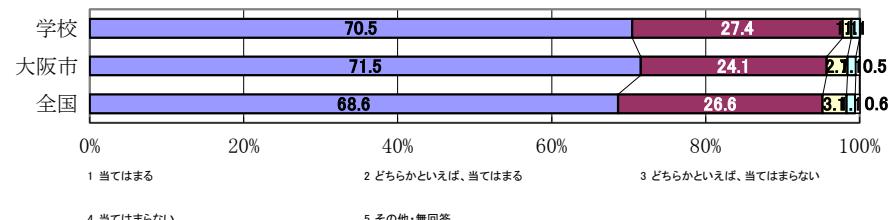
13

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



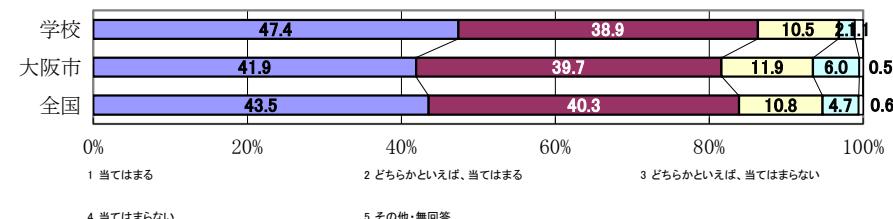
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



16

学校に行くのは楽しいと思いますか



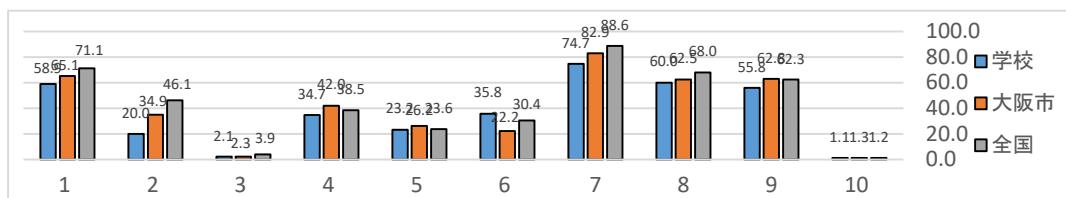
令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より (26)

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学
校協働本部や地域住民などによる
学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で
勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を
除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事
を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲーム
をしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1~9に当てはまるものがない

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

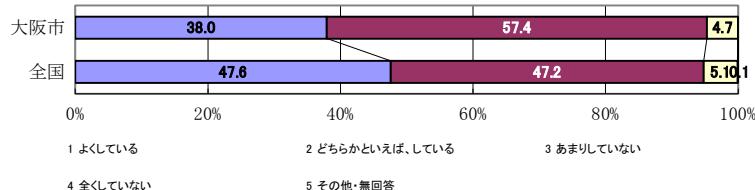
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 □8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

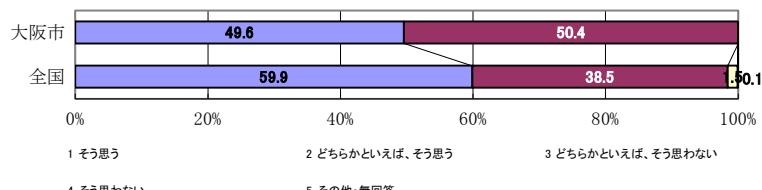
学校 「よくしている」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

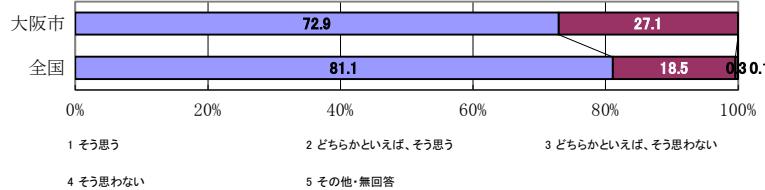
学校 「そう思う」を選択



21

各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

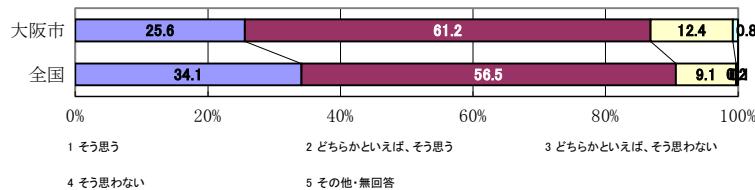
学校 「そう思う」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

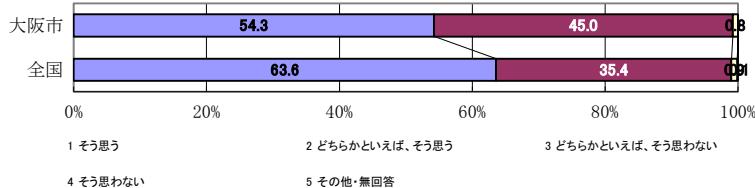
学校 「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

学校 「そう思う」を選択

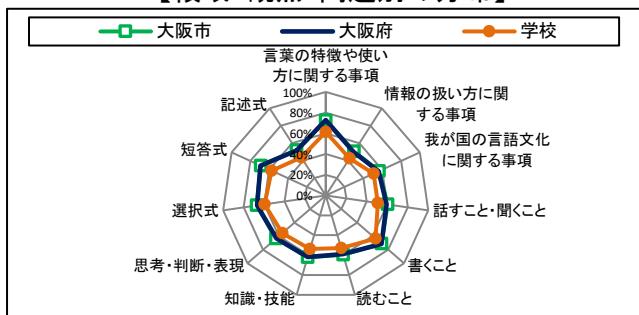


【国語】

【得点分布】

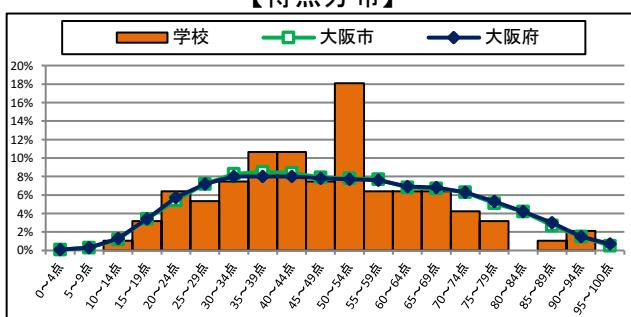


【領域・観点・問題別の分布】

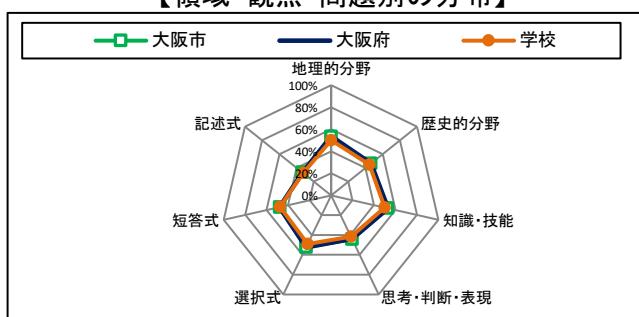


【社会】

【得点分布】

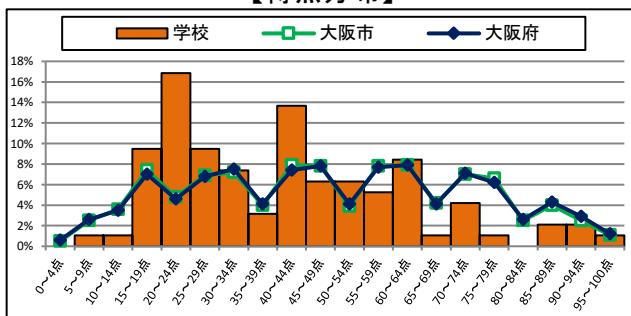


【領域・観点・問題別の分布】

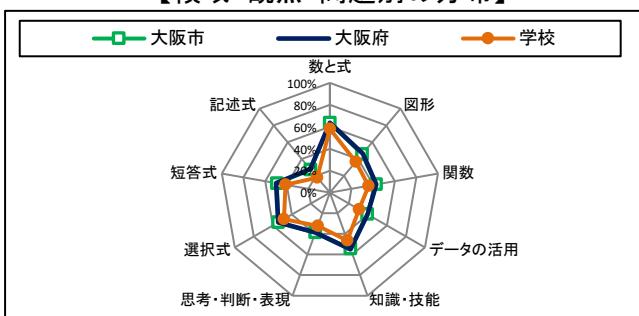


【数学】

【得点分布】

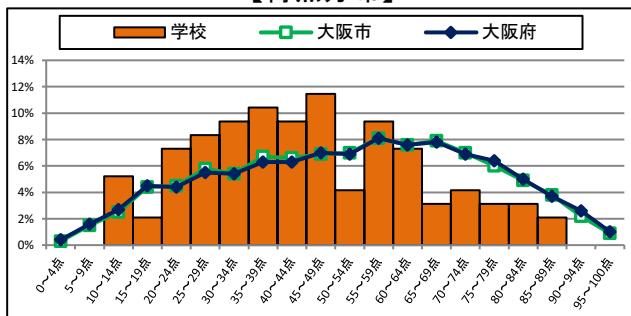


【領域・観点・問題別の分布】

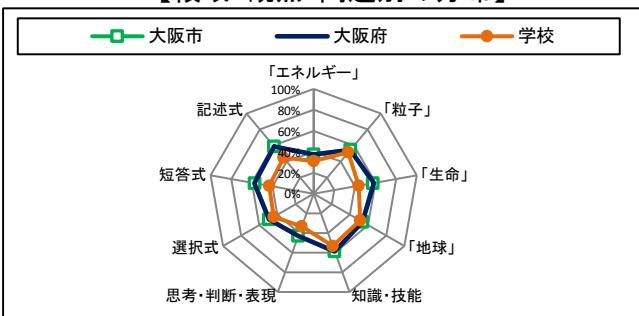


【理科 C】

【得点分布】

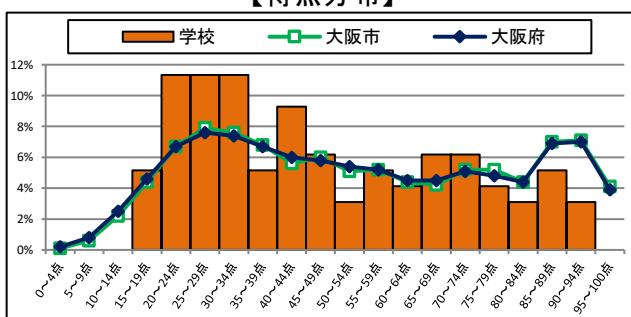


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

